

IRレポート

第1号

巻頭言

日本の社会の仕組みが大きく変化していく中、「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」(文部科学省・中央教育審議会, 2018)によって高等教育機関が実現すべき方向性が示されてからの高等教育改革は目まぐるしく、大学教育の価値が問われてきています。建学精神と伝統に基づいた九州ルーテル学院大学の教育が学生・保護者や地域の方々に大きく貢献するためには、この変化と改革の本質を見定めて本学の教育の検証と改善を重ねていかななくてはなりません。

そこで本学では、学長のリーダーシップのもと、本学の教育をはじめとする諸活動に関わる課題を学長室会で検討して、諸活動におけるの大学各部署の意思決定を円滑に進めていく体制を整えています(図1参照)。そして本学のIR (Institutional Research)をIR・情報委員会及びIR・情報室が担当し、本学のアセスメントプラン(表1参照)にしたがって得られたデータとその分析結果を学長室会に提示してその意思決定をサポートしており、学生生活環境と教育体制の改善とFD・SDに繋がる体制をとっています。この体制の中、特に今回は教学に注目し、数年にわたって集積された本学学生の学修行動・時間、成長実感、授業評価データの経年比較や学科専攻・学年比較を行いました。この結果は2022年9月8日の学長室会に提出し、様々な意見が提示されました。また、2022年9月15日の教授会では同様に報告し、本学の教育改善に向けた議論を進めました。そこで、そうした意見・議論をまとめて、本学の各学科・専攻・コースの専任教員だけでなく、本学の教育にご協力くださっている非常勤教員の先生方や、本学の教育等の諸活動をご支援くださっている保護者や地域の皆様方からご意見をいただければと思い、ここに報告いたします。

また、IRは、アセスメントプランに基づいて着実にデータが収集されることで成り立っています。その過程には、アンケート作成・調査依頼をする教職員の働きや、アセスメントに回答を提供してくれる学生の思いが関わり、そうした方々の協力無くしてIRは機能しません。アセスメントに関わる学生や教職員の皆様方、ここにあらためて感謝申し上げます。

図1

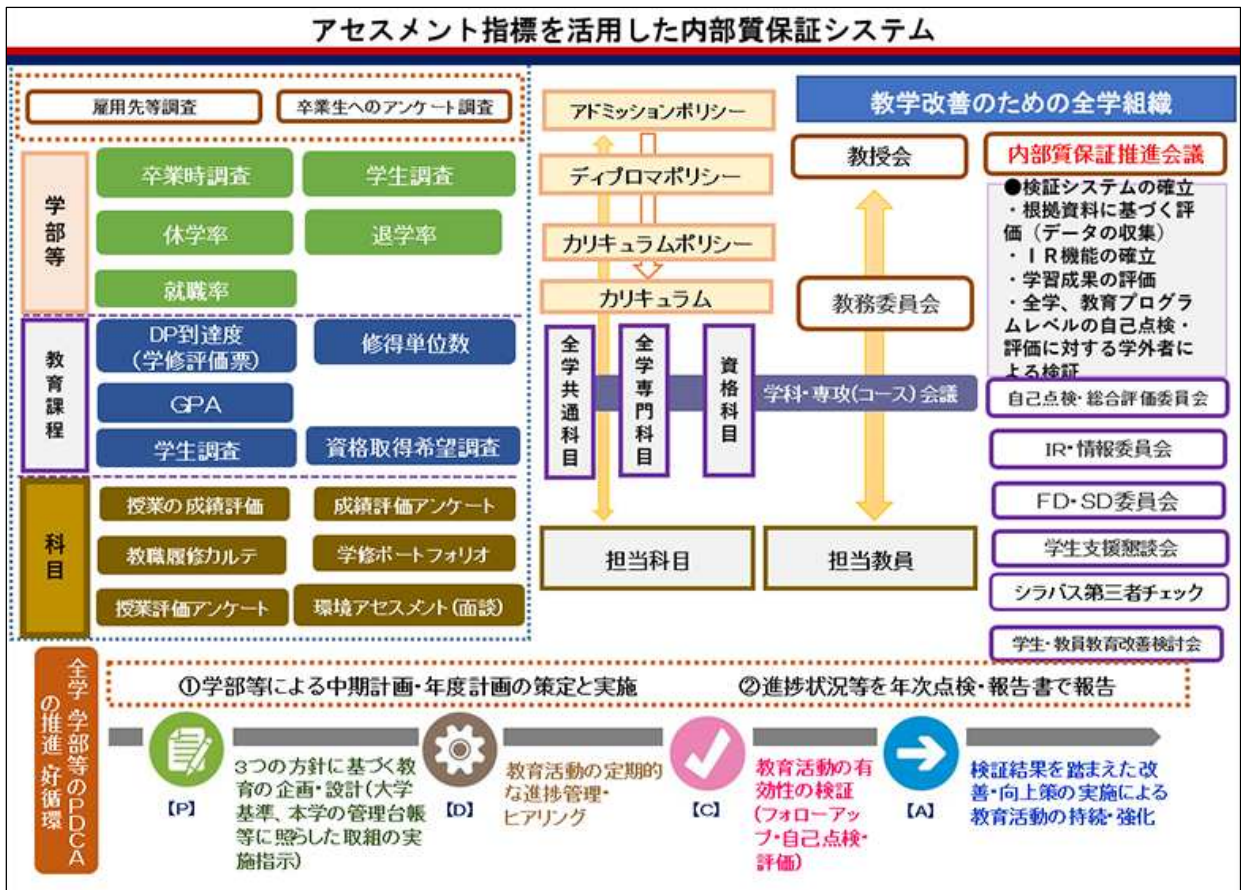


表1 アセスメントプラン

本学では、ディプロマ、カリキュラム、アドミッションの3つのポリシーに基づき、機関（大学）レベル、課程レベル、科目レベルの3段階で入学時から卒業時までの学修成果査定の実施時期や方法、またデータ活用方法等に関する計画（アセスメントプラン）を以下の表のとおりに定めています。この査定計画は、今後の運用を通してより適切なものにするべく、適宜見直しを行ってまいります。また、この計画のもとに査定された学修成果は本学の関連規程等に準じて個人情報保護に努めるとともに、積極的に公表してまいります。各実施者におきましては、各査定の円滑な実施と厳格なデータ管理に努め、学修成果データの共有・分析・公表にご支援賜りますようお願いいたします。

九州ルーテル学院大学 教務委員会

直接指標										間接指標										
番号	名称	実施時期	対象	内容・質問項目等	手法	評価者	結果の活用方法	可視化レベル	実施者	番号	名称	実施時期	対象	内容・質問項目等	手法	評価者	結果の活用方法	可視化レベル	実施者	
入学時	d01	入学試験	受験者 入学生	・科目試験 ・小論文 ・大学入試センター試験(大学入学共通テスト) ・調査書 ・学校長推薦書 ・志願理由書 ・面接	採点	教員	・入学者選抜に用いる ・入学時の各学生の特性を把握する ・各学科・専攻入学希望者の特性を把握する ・入学生の入学試験データと入学後のデータの関連性を検討して、入学生選抜の適切性を検証する ・入学後データとの関連性を検討して、各学生の入学後の修学状況や成績・資質・能力の動向を予測する ・学修支援及び就職支援に活用する	機関 課程 科目	入試課 入試委員会	101	オープンキャンパス・アンケート	7-11月	オープンキャンパス参加者	・キャンパスイベント評価 ・進路選択行動 ・大学で身につけたい能力	質問紙	オープンキャンパス参加者	・イベントの改善 ・本学入学志望者特性の分析と入学選抜の予測 ・本学イメージ及び本学に対するニーズの調査 ・各学科・専攻の入学希望者数を把握して各学科・専攻への興味・関心から、各学科・専攻の次年度入学者を予測する	機関 課程	入試課 入試委員会	
	d02	入学前課題 評価(プレレクチャ)	学校推薦 選抜合格者	・各学科・専攻が課す課題の評価	採点	教員	・各学科・専攻の推薦合格者の特性を把握する ・学生にフィードバックして初年次教育(導入教育)に必要な資質・能力を向上させる	課程	各学科・専攻	102	プレレクチャ・アンケート	12月	学校推薦 選抜合格者	・イベント評価 ・入学前行動 ・本学への認識・理解	質問紙	学校推薦 選抜合格者	・イベントの改善	機関 課程	入試課 入試委員会	
	d03	英語プレイ スメント・ テスト	1年生	・GSE(Global Scale of English) ・オリジナルテスト(Grammar, Reading & Vocabulary)	試験	教員	・入学時の各学生の英語能力を把握する ・新入生を英語の能力別クラス分けして、学生の能力にあった適切な英語教育を実施する ・入学後データとの関連性を検討して、入学後の英語能力や成績・資質の動向を分析する	課程 科目	キャリア・ イングリッシュ 専攻	103	新入生アンケート	入学予 定者	入学予 定者	・進路選択行動 ・本学への認識・理解 ・入学後の希望 ・卒業後の希望	質問紙	入学予 定者	・本学広報及び情報公開の改善 ・免許・資格取得希望者の把握 ・本学イメージ及び本学に対するニーズの調査 ・各学科・専攻に対するイメージやニーズを把握して、各学科・専攻のDPやCPを検証する	機関 課程	入試課 入試委員会	
在学中	d04	在籍状況	3月・5月 全学年	・在籍者数 ・休学率 ・退学率 ・留学率 ・転入学率 ・転学科率		職員	・大学全体または各学科・専攻の在籍状況データの平均値や分布状況を把握して、各学科・専攻のDP・CP・APを検証する	機関 課程	学生支援課 学生支援委員会	104	DPに定められた 質・能力の目標 設定(学修 評価票)	3月・9月	全学生	共通教育と各学科・専攻のDPに 定められた質・能力	学修ポ ートフォ リオ が 自 己 評 価 の 自 己 設 定 入 力	学生	・DPに定められた質・能力に関する目標設定と自己評価・G評価の差の検討 ・設定目標の著しく低い学生を学修支援・指導につなげる ・各学科・専攻の学生の学修意欲・目標を把握する ・各学生のDPに定められた質・能力に関する目標設定の高さの要因を他データとの関連性から検討する	機関 課程 科目	教務課 教務委員会	
	d05	修得単位数	3月・9月 全学年	可以上の成績を得た履修科目の単 位合計		職員	・本学の在学生の修得単位数を確認し、修得単位数の少ない者を学修支援・指導につなげる ・他データとの関連性を検討して、修得単位数の多い在籍者の特性を把握するとともに、学生の学修成果及び本学の教育成果を検証する ・各学科・専攻の修得単位数の平均値や分布状況を把握して、DP・CP・APを検証する	機関 課程 科目	教務課 教務委員会	105	DPに定められた 質・能力の目標 設定(学修 評価票)	3月・10月	全学生	共通教育と各学科・専攻のDPに 定められた質・能力	学修ポ ートフォ リオ が 自 己 評 価 の 自 己 設 定 入 力	学生	・DPに定められた質・能力に関する自己評価とG評価の差の検討 ・G評価に対して著しく自己評価の低いあるいは低い学生を学修支援・指導につなげる ・各学科・専攻の学生における自己成長感を把握する ・各学生のDPに定められた質・能力に関する自己評価の高さの要因を他データとの関連性から検討する	機関 課程 科目	教務課	
	d06	GPA	3月・9月 全学年	可以上のG評価科目のG平均		教員	・本学の在学生のGPAを確認し、GPAの低い者を学修支援・指導につなげる ・各科目・専攻・学科のGPA分布を確認し、成績評価の厳格化を図る ・他データとの関連性を検討してGPAの高い在籍者の特性を把握するとともに、学生の学修成果及び本学の教育成果を検証する ・各学科・専攻のGPAの平均値や分布状況を把握して、DP・CP・APを検証する	機関 課程 科目	教務課 教務委員会	106	資格・免許 取得希望調 査結果	4月	全学生	大学が保証・推奨している資格・ 免許の取得希望の有無	質問紙	学生	・学生の履修指導につなげる ・DP・CP科目別の体系性を検証する ・各学科・専攻の学生の資格・免許取得希望者を把握して、各学科・専攻の学生の学修意欲の1つ目の目安として把握するとともに、各学科・専攻のDPやCPを検証する	機関 課程	教務課	
	d07	DPに定められた 質・能力の達成 状況(学修 評価票)	3月・10月 全学年	共通教育と各学科・専攻のDPに 定められた質・能力	カリキュ ラム マップと 各科目自 成 績 を 元 に し て 数 値 化	教職員	・各学生のDPに定められた質・能力の経年変化の把握と学生へのフィードバック ・DPに定められた質・能力の著しい低下を示した学生を学修支援・指導につなげる ・各学科・専攻の学生の質・能力の達成水準を把握する ・各学生の他データとの関連性を検討して、学生の学修成果及び本学の教育成果を検証する	機関 課程 科目	教務課	107	授業評価ア ンケート	3月・9月	全教員	・対面授業・遠隔授業の共通事項に対する評価 ・遠隔授業に対する評価 ・全学共通DPに定められた質・能力の向上の程度	質問紙	学生	・全学的な授業の質の評価 ・各科目の授業の経年変化を明らかにし、授業効果の検証と授業内容・方法の改善・向上を図る	機関 課程 科目	FD・SD委 員会	
	d08	教職履修力 ルチ	教職課程 履修者	評価分析及び科目別評価への自己 評価	個人票に 記入され た項目へ の評価に 対する教 員評価の 記入	教員	一	機関 課程 科目	教務課	108	学修調査	12月	全学年	・本学に対する評価・印象 ・学生の各質・能力の成長実感 ・学修態度・行動 ・授業外の学修時間 ・学内活動と学外活動の時間 ・免許・資格・検定取得状況	質問紙	学生	・教育や学生生活に関する制度の検証と新設設置 ・各学科・専攻の学生の学修状況や成長実感度を把握して、各学科・専攻のDPやCPを検証する	機関 課程	IR・情報委 員会	
	d09	学外検定・ 試験結果	3月 全学年	・TOEIC ・TOEFL ・実用英語技能検定 ・秘書検定 ・Excel処理技能検定 ・Word処理技能検定 ・ITパスポート ・基本情報技術者 秘書検定 ・おもちゃイラストレーター ・漢字能力検定 ・実用数学技能検定 ・くまもと「水」検定 ・熊本・観光文化検定 等	試験	教員	・各学科・専攻の学生の質・能力の達成水準を把握する	機関 課程	各学科・専攻	109	学生生活調 査	8月・3月	全学年	・学生生活充実度 ・本学の授業・教育サービスに対する満足度 ・本学の施設及びサービスに対する満足度 ・新型コロナウイルス感染症における学生生活の不安・困感度	質問紙	学生	・全学的な学生生活状況の把握 ・本学の教育サービス・制度の改善 ・施設や生活支援サービスの改善	機関 課程	IR・情報委 員会	
	d10	英語レベル テスト	9月・2月 一	コンピュータベースの英語4技能 試験	試験	教員	・キャリア・イングリッシュ専攻学生の英語能力を確認し、英語指導に活かす	課程	キャリア・ イングリッ シュ専攻	110	成績評価ア ンケート	3月・9月	全教員	・事前・事後学修の実施状況 ・授業進行速度 ・授業の工夫	質問紙	全教員	・各科目の授業状況を把握する ・授業内容・方法の改善・向上を図る	科目	教務課	
	卒業時・ 卒業後	d11	卒業論文評 価	各学科・専攻、コースのルー ブリック項目	ルー ブリッ クによる G評価	教員	・卒業研究GPAの平均値や分布状況を把握することで、DPやCPを検証する ・各学科・専攻の卒業研究GPAの平均値や分布状況を把握することで、各学科・専攻のDPやCPを検証する	機関 課程	各学科・専攻	111	卒業時ア ンケート	3月	4年生	・在学中の各活動の取り組みの程度 ・教育内容の満足度 ・学修・生活支援体制に対する満足度 ・施設・設備に対する満足度 ・自己成長実感度 ・進路決定満足度 ・学生生活満足度	質問紙	学生	・大学全体または各学科・専攻の学生生活状況の把握 ・学内施設やサービスの改善と向上 ・教育や学生生活に関する制度の検証と新設設置 ・各学科・専攻の学生の学修状況、取組み状況、成長実感度等を分析して、各学科のDPやCPを検証する	機関 課程	教務課 教務委員会 IR・情報委 員会	
		d12	資格・免許 取得状況	3月 4年生	・保育士 ・幼稚園教諭一種免許状 ・小学校教諭一種免許状 ・中学校・高等学校教諭一種免許状(英語) ・高等学校教諭一種免許状(公民) ・特別支援学校教諭一種免許状 ・精神保健福祉士受験資格 ・スクールソーシャルワーカー ・公認心理師大学指定科目修得 ・認定心理士 ・小学校英語指導者資格	試験	教職員	・各学科・専攻の資格・免許取得者の平均値や分布状況を把握することで、各学科・専攻のDPやCPを検証する	機関 課程	教務課	112	卒業生ア ンケート	4月-7月 (8月 に集 計・分 析)	前年度 卒業生	・勤務・進路状況 ・退職・転職状況 ・DPに定められた質・能力を修得して活かしている実態度 ・社会基礎力(12の力)の修得程度 ・実社会で必要な社会基礎力・社会人基礎力の修得に役立つ取組みや活動	質問紙	卒業生	・卒業生の勤務・進路状況の把握 ・DPに定められた質・能力や社会人基礎力の平均値や分布状況を把握することで、DPやCPを検証する ・教育体制や教育サービスの改善と向上 ・各学科・専攻の特色ある教育内容・体制を開発する	機関 課程	IR・情報委 員会
		d13	学位取得状 況	3月 4年生	・学位取得者数 ・学位取得にかかると年数		職員	・DPやCPの検証 ・長期修業制度や早期卒業制度の検証 ・各学科・専攻の教育の質が確保されているかを検証する	機関 課程	教務課	113	履用先ア ンケート	4月-9月 (10月 に集 計・分 析)	前年度 履用先	・卒業生のDPに定められた質・能力の評価 ・履用先が必要とする学生の修得すべき資質・能力 ・本学の教育内容・体制に対する意見	質問紙	企業 履用先	・卒業生の勤務状況および評価の把握することで、教育効果を検証する ・DPに定められた質・能力の評価や企業・履用先が必要とする学生の質・能力を把握することで、教育内容・体制及びDP・CPを検証する ・各学科・専攻の特色ある教育内容・体制を開発する	機関 課程	学生支援課 就職支援委 員会
d14		進路決定状 況	5月 4年生	・卒業率 ・就職率 ・進学率		職員	・進路決定状況の平均値や分布状況を把握することで、DPやCPを検証する ・各学科・専攻の進路決定状況の平均値や分布状況を把握することで、各学科・専攻のDPやCPを検証する	機関 課程	学生支援課 就職支援委 員会											

調査概要

《調査対象者》

2019年度から2021年度に本学に在籍していた全学生です。

《調査時期》

ここに報告するデータ源は学生動向調査データで、IR・情報委員会が毎年11月下旬から1月にかけて実施している調査に基づいています。

《調査方法》

1～4年生向けのwebアンケートを作成し、本学のwebポータルサイトよりwebアンケート回答を依頼するだけでなく、学科・専攻の必修科目の担当教員や特別研究および卒業研究の担当教員が学生にwebアンケート回答を要請しています。

《回収率》

回収率は年度・学年で以下のとおりです。

年度	1年生	2年生	3年生	4年生	その他
2019	41.4%	53.9%	58.2%	35.0%	0.0%
2020	57.0%	56.3%	42.1%	38.8%	11.8%
2021	43.8%	36.9%	28.0%	24.4%	16.7%

※その他は、過年度生、科目等履修生、長期履修生が該当します。

《分析方法》

今回の分析では、回答データをもとに、年度、学科・専攻・コース、学年ごとに人数比率や平均値を算出して比較するための作図を行いました。

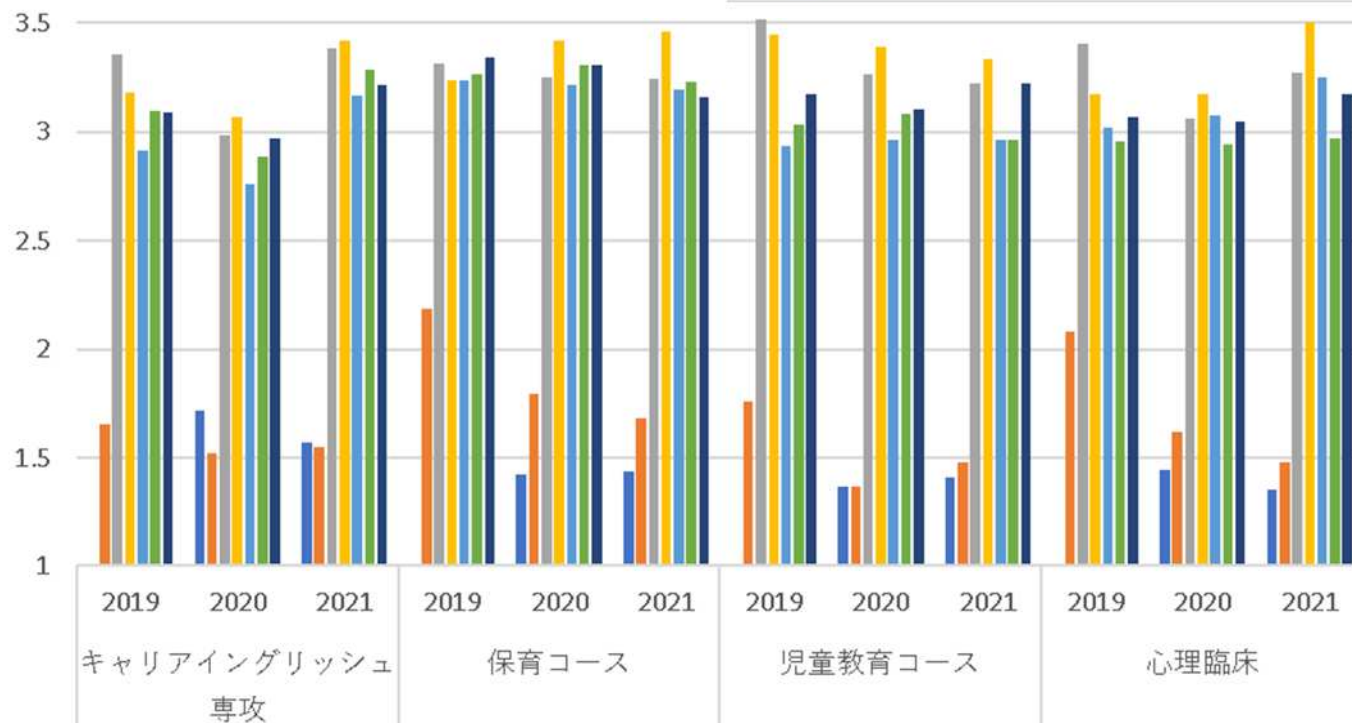
学修態度

学修態度・全学科専攻コース

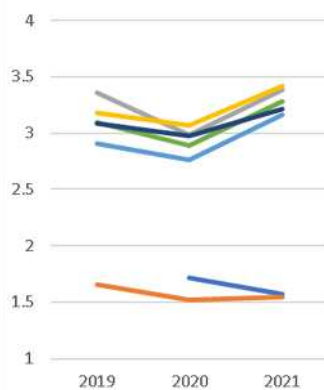
※回答段階
 1. ほとんどなかった
 2. あまりなかった
 3. まああった
 4. かなりあった

学修態度・凡例

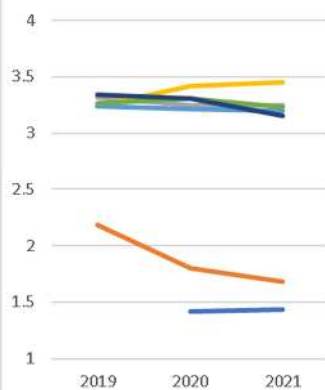
- 欠席・遅刻
- 居眠り
- 板書やスクリーン上の内容をノートに書き写す
- 担当教員の話を書いて書き取る
- 授業を面白いと感じる
- 担当教員に親近感を感じる
- 授業内容を理解できたと感じる



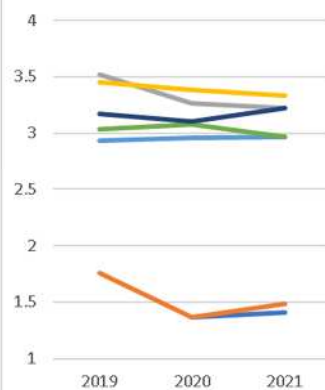
学修態度・CE



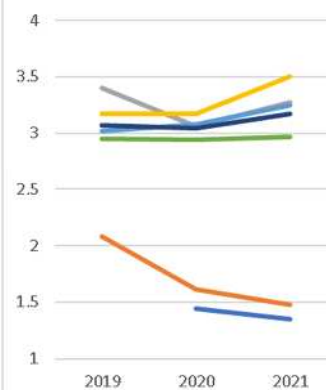
学修態度・保育



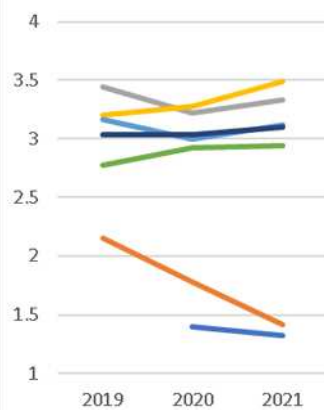
学修態度・児童教育



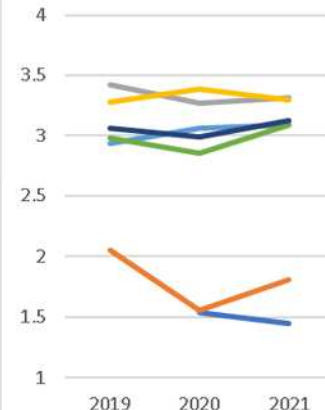
学修態度・心理臨床



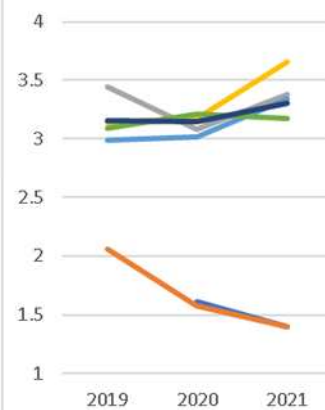
学修態度・1年生



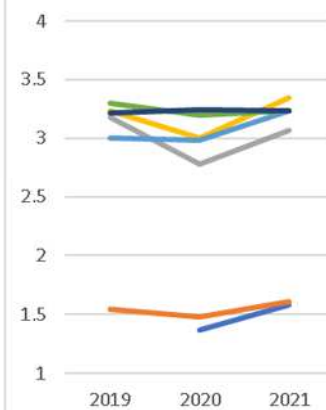
学修態度・2年生



学修態度・3年生



学修態度・4年生



まず、居眠りが概ねどの学科専攻コースでも 2020 年度以降に減少していました。これは、オンライン授業そのものが増えたためかもしれません。ただ、1 年中オンライン授業をしていたわけではありませんので、一方では対面授業が実施されていた時期では、対面授業が貴重である認識が学生の中に芽生え、オンライン授業に比べて刺激的であったため、居眠りが減少した可能性もあります。

また、児童教育コースを除いた学科専攻コースで、教員の話聞いて書きとることが増加しています。これは、コロナ禍でオンライン授業になった際に Moodle が導入されて以来、資料を Moodle 等で web 配信されてペーパーレスとする授業が増えて、教員の話したことを自分のノート等に書きとる必要性が増大したことが関係あるかもしれません。

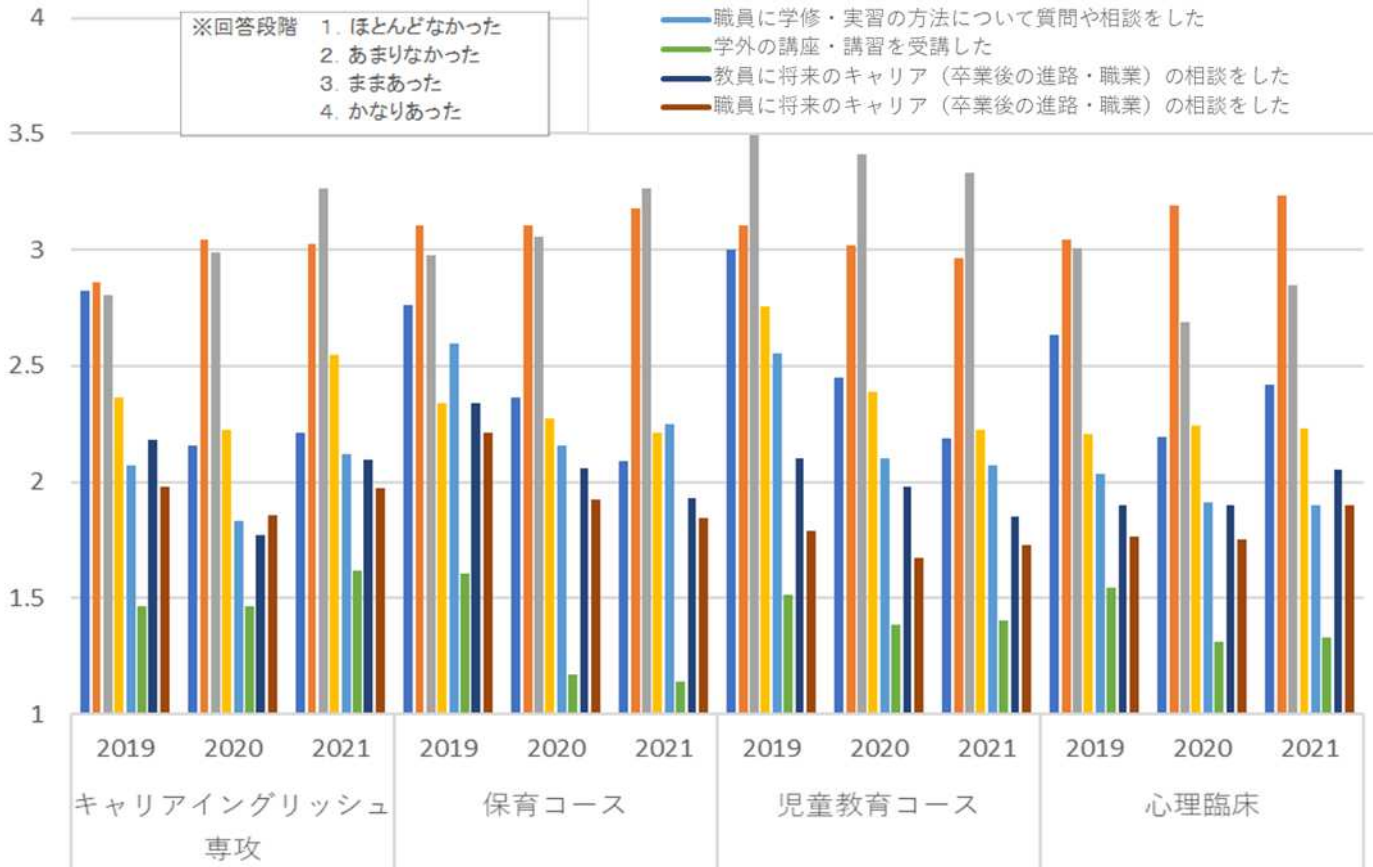
学修行動

学修行動・全学科専攻コース

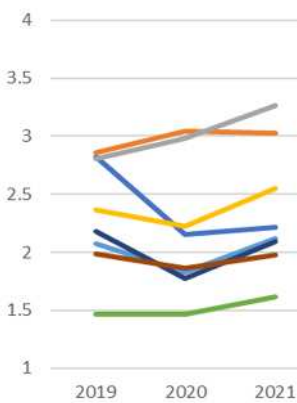
学修行動・凡例

- 図書館の資料を利用した
- インターネット上の資料を利用した
- 他の学生と一緒に勉強したり授業内容を話し合ったりした
- 教員に授業内容や学修方法について質問や相談をした
- 職員に学修・実習の方法について質問や相談をした
- 学外の講座・講習を受講した
- 教員に将来のキャリア（卒業後の進路・職業）の相談をした
- 職員に将来のキャリア（卒業後の進路・職業）の相談をした

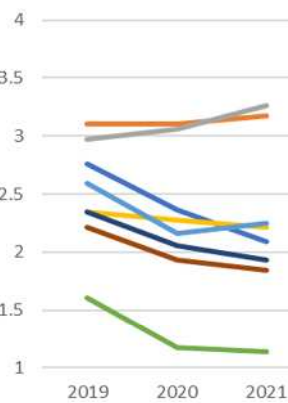
※回答段階
 1. ほとんどなかった
 2. あまりなかった
 3. ままあった
 4. かなりあった



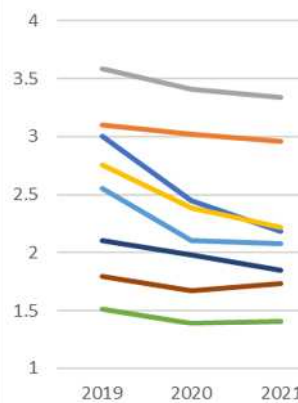
学修行動・CE



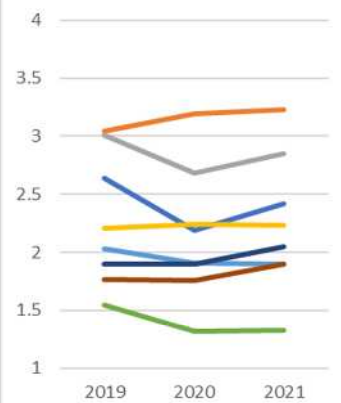
学修行動・保育



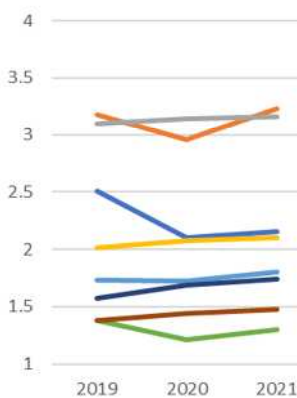
学修行動・児童教育



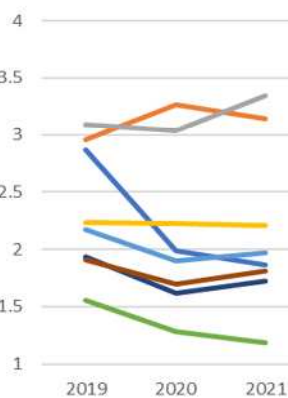
学修行動・心理臨床



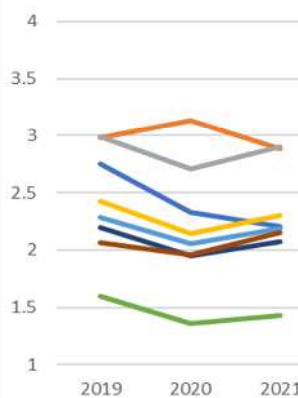
学修行動・1年生



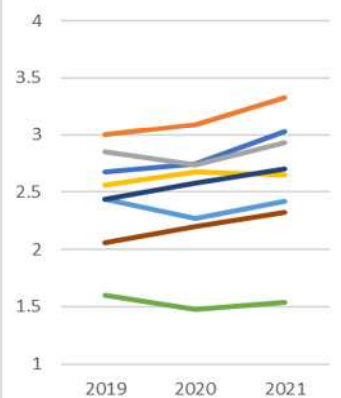
学修行動・2年生

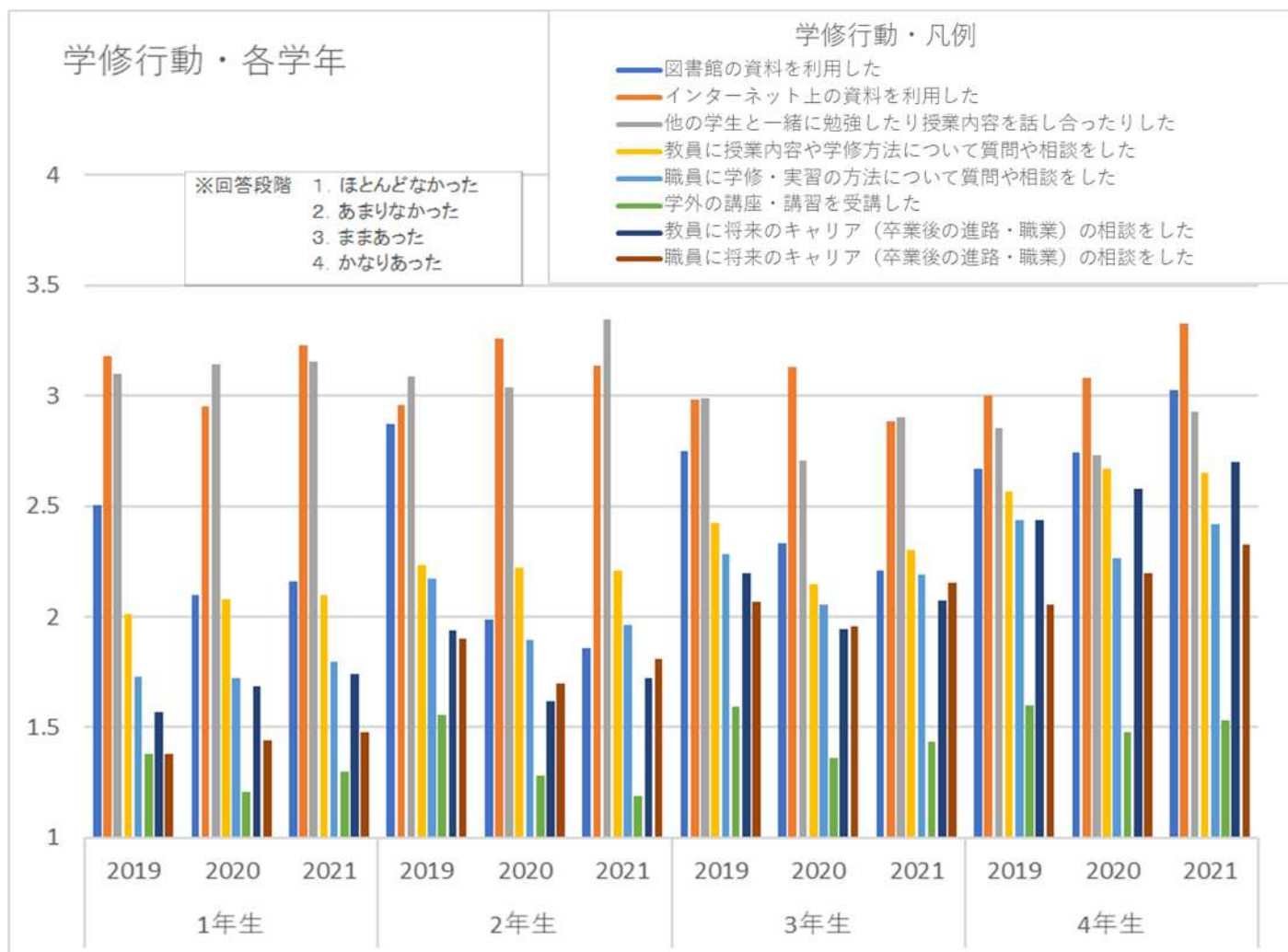


学修行動・3年生



学修行動・4年生





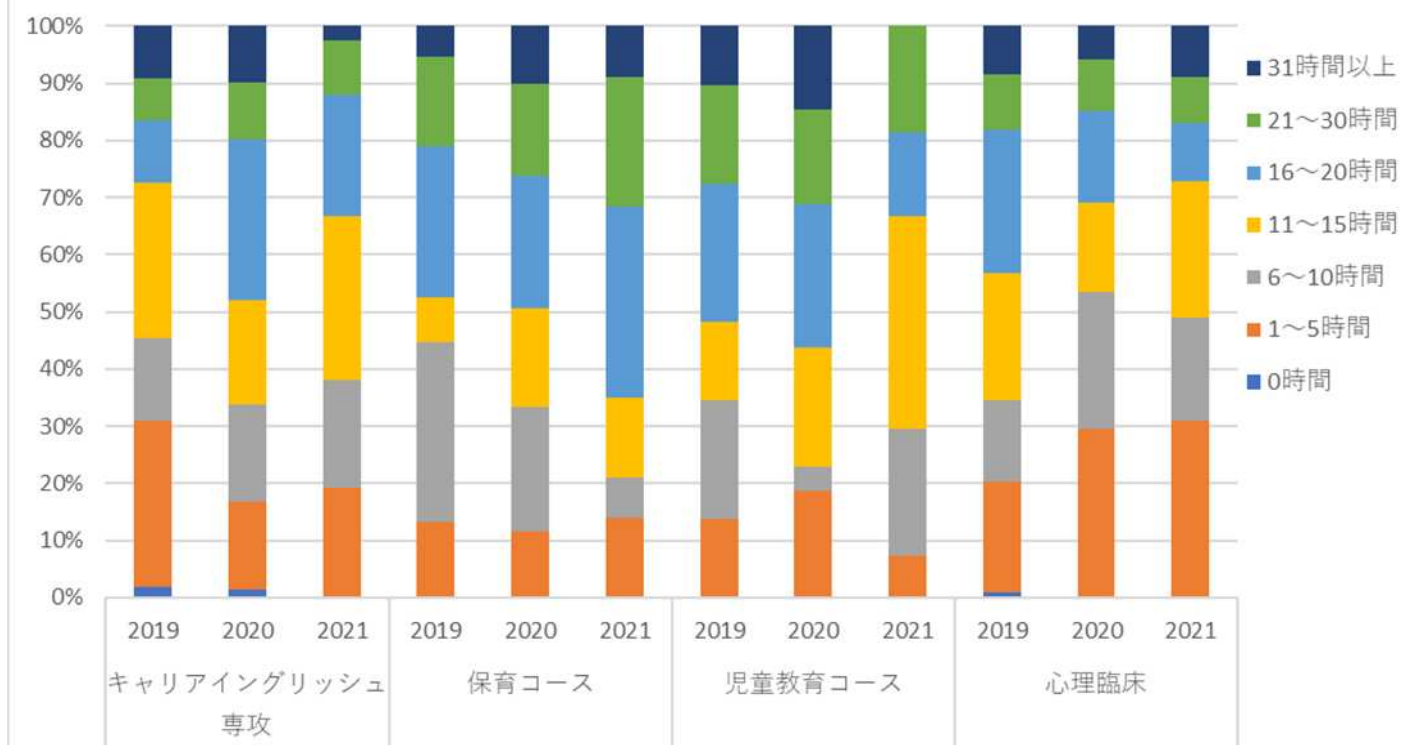
学修行動に関しては、ネット資料利用は維持・上昇しているのですが、図書館資料利用がどの学科専攻コースでも2020年度より減少しています。コロナ禍で登学が制限されたことが原因かもしれません。または、コロナ禍でオンライン授業に一度方向転換した際に、学生がオンライン授業の課題等に取り組むことで、ネット上に有効な情報や電子化された論文等の文献が場合によっては無償で入手できることを学習した結果、反対に図書館にある書籍や資料を利用することが少なくなった可能性も考えられます。昨今は、論文等の学術情報は電子化されて、部分的に無償で手に入れることができるようになり、以前とは比べ物にならないほどに多くの情報に学生も教職員も晒されています。そうした中であっても、印刷物が重要な学術情報であることには変わりありません。むしろ、電子化されない印刷物の情報のほうが希少で価値の高い場合もあります。したがって、教職員は様々な情報が電子化されて入手しやすい社会において印刷物情報の価値を再検討するとともに、サーチエンジンや学術論文・書誌データベースより必要な情報を検索して適切にアクセスし、その情報を著作権や肖像権を侵害しない形で活用する方法を学生に提示していかなければいけないことは、大きな課題の1つです。

また、児童教育コースでは教員への質問が減少している傾向が見受けられました。学長室会でのこの結果を説明したところ、人文学科または児童教育コースでこの結果に照らして事実確認を行うことが確認されました。さらに、保育・児童教育コースでは教職員へのキャリア相談が減少している傾向も明らかになりました。学長室会では、コロナ禍で登学が困難な状況で相談が難しくなったのが要因ではないかという意見や、学生が研究室に来た際には就職支援関連部署に向かうように個別対応はしているが、どうしてなのかという疑問が出されました。これについても事実確認のうえ、学生のキャリア形成につながるサポートの在り方を再検討することが確認されました。

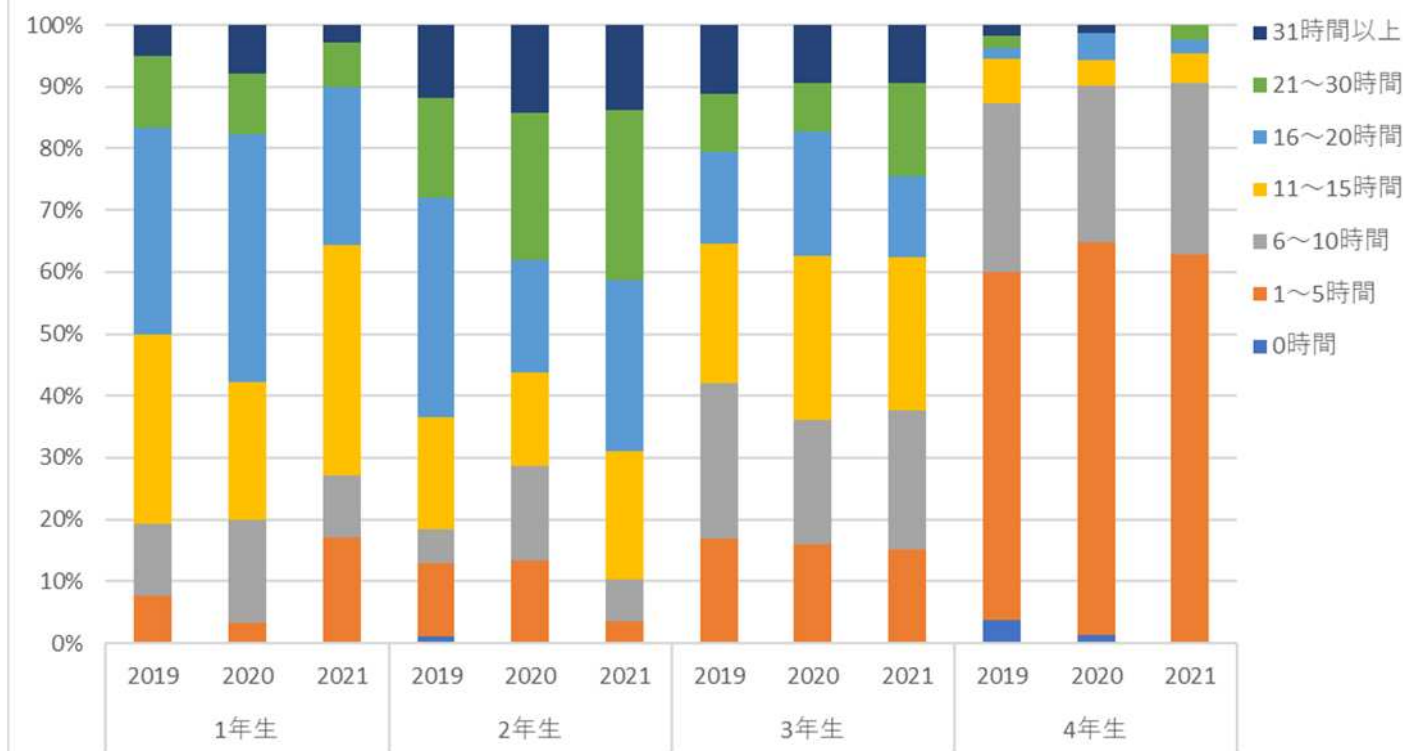
学修時間

授業出席時間

授業への出席・全学科専攻コース



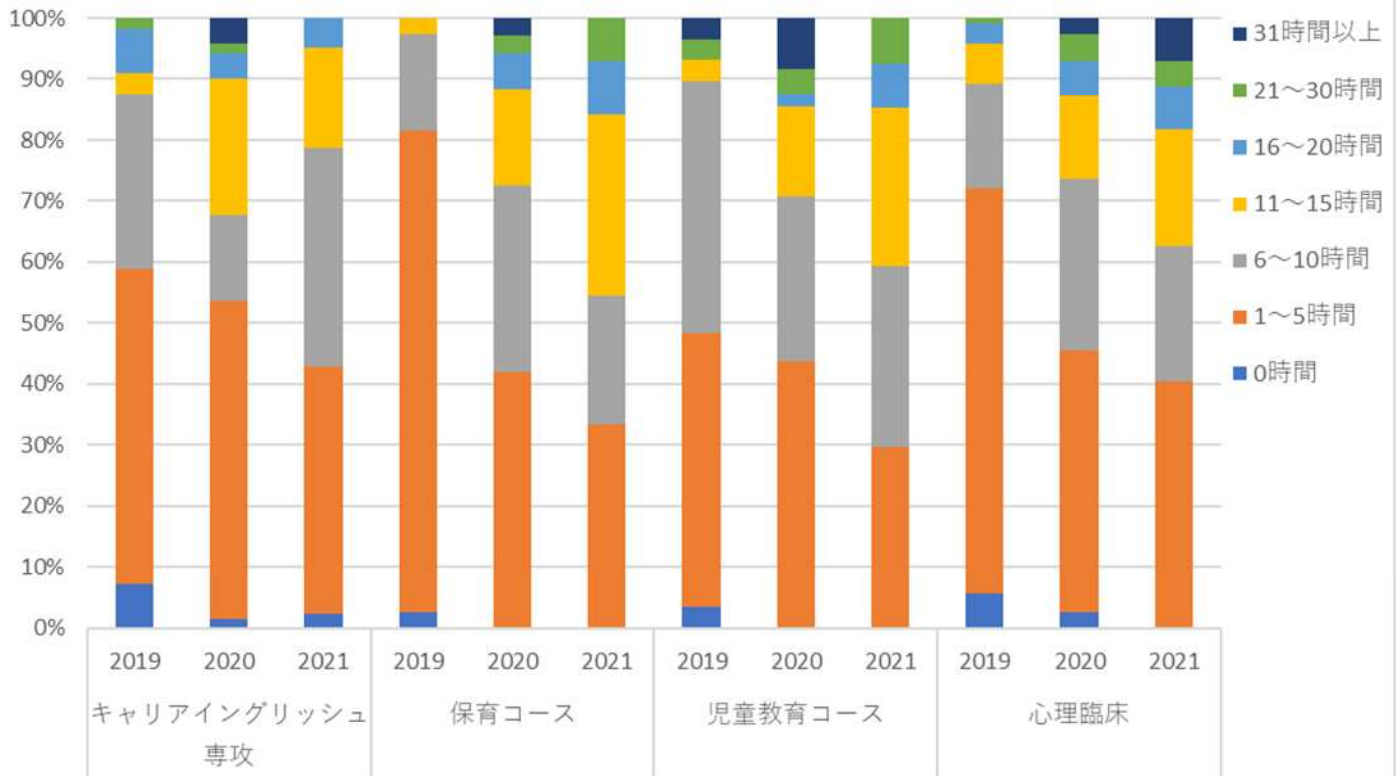
授業への出席・各学年



授業に関する学習の時間

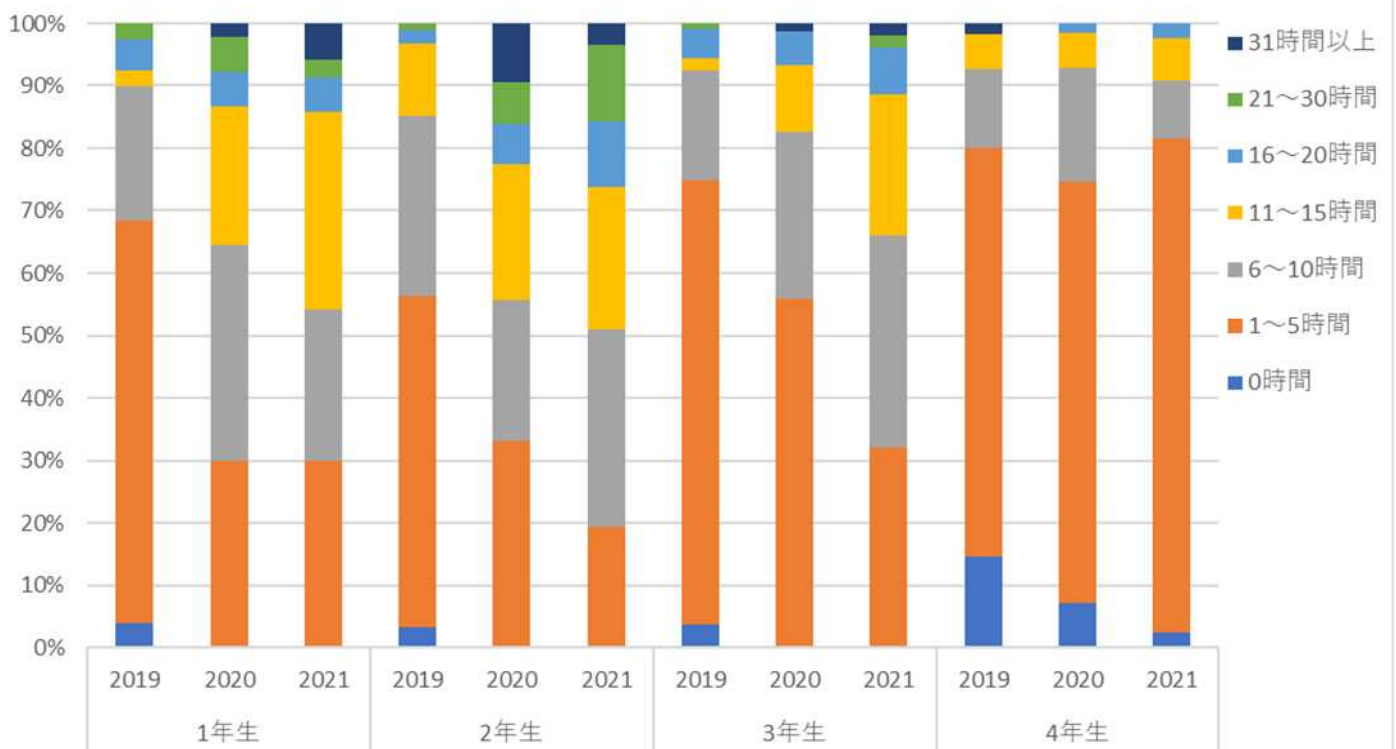
授業に関する学習・全学科専攻コース

※授業に関する学習：予習・復習・課題・事前事後学修のための時間



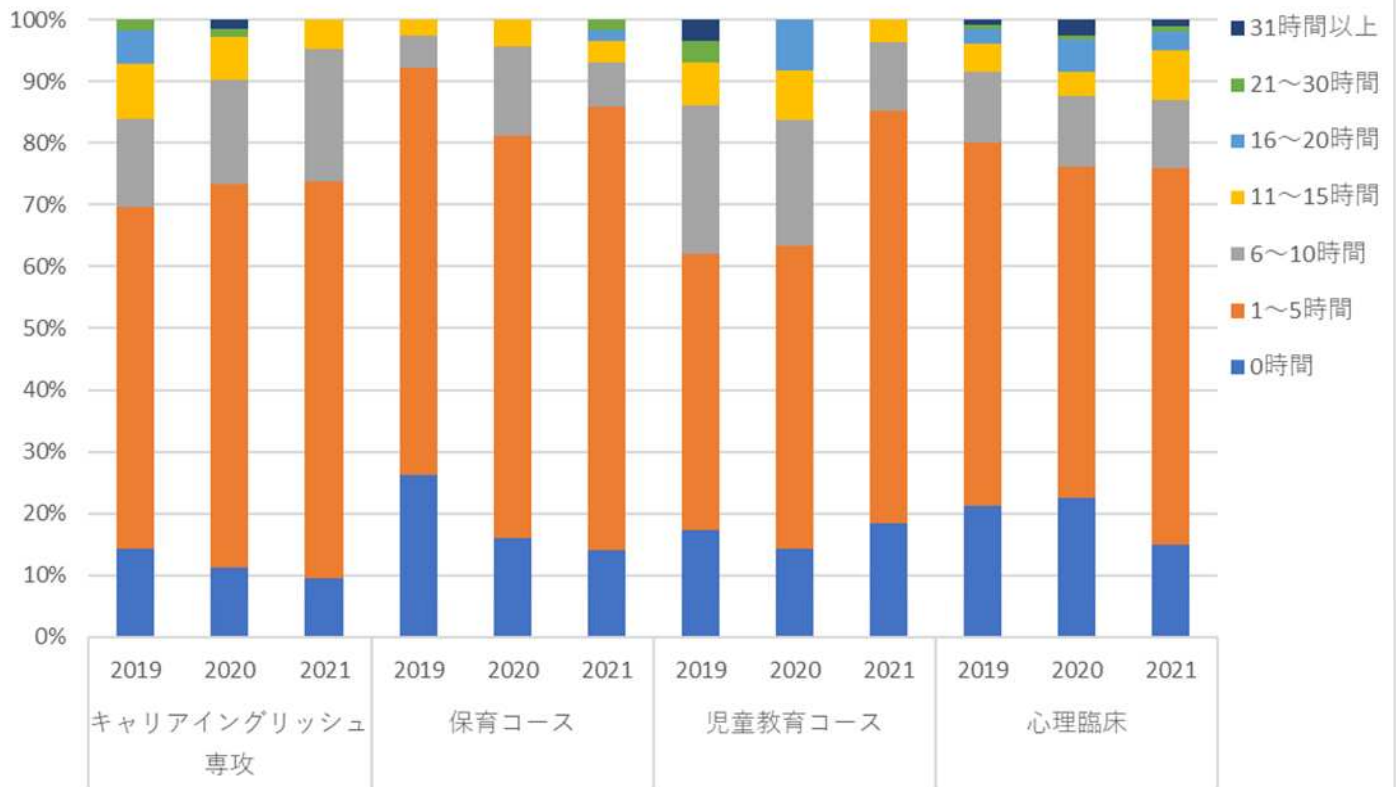
授業に関する学習・各学年

※授業に関する学習：予習・復習・課題・事前事後学修に掛かる時間

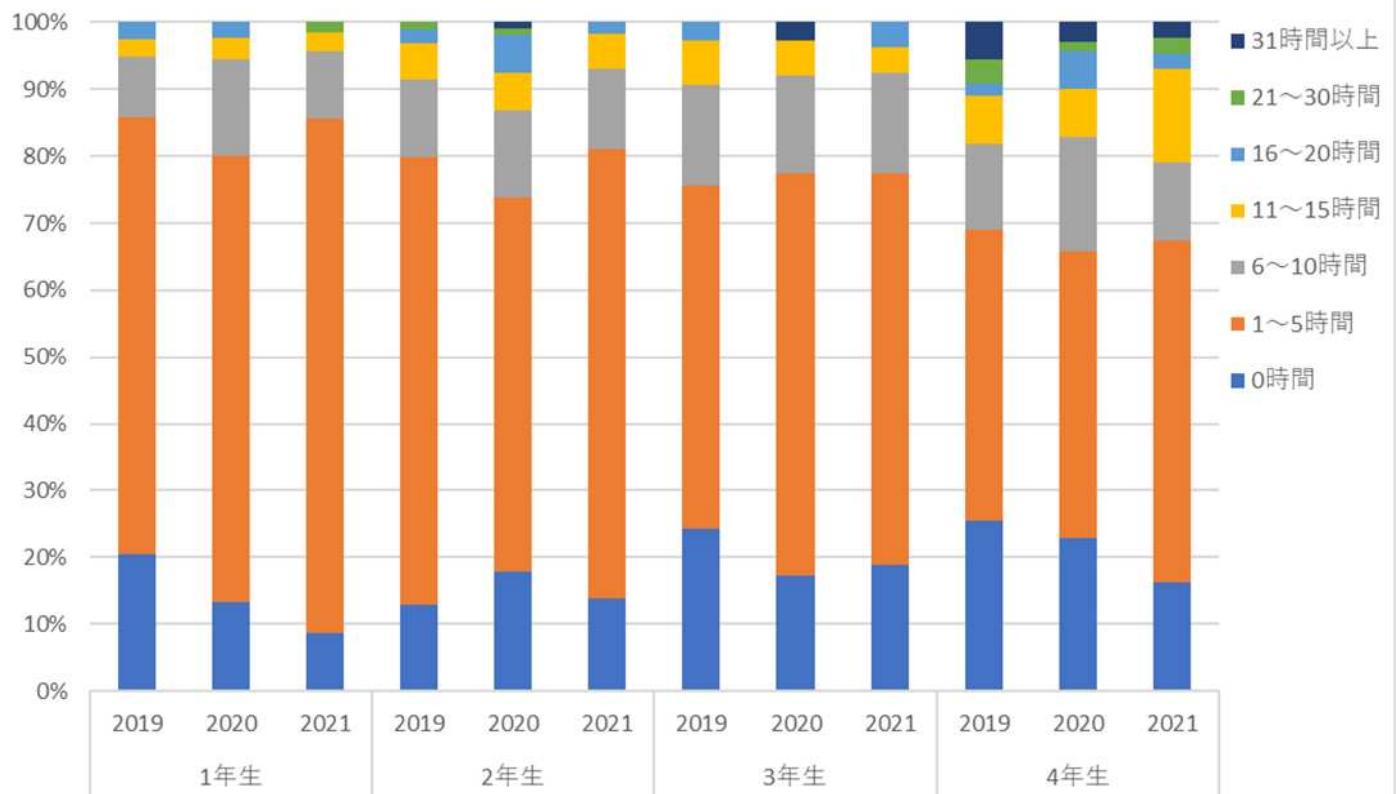


授業の予習・復習・課題（事前事後学修を含む）以外の学習の時間

授業の予習・復習・課題以外の学習（全学科専攻コース）



授業の予習・復習・課題以外の学習（各学年）



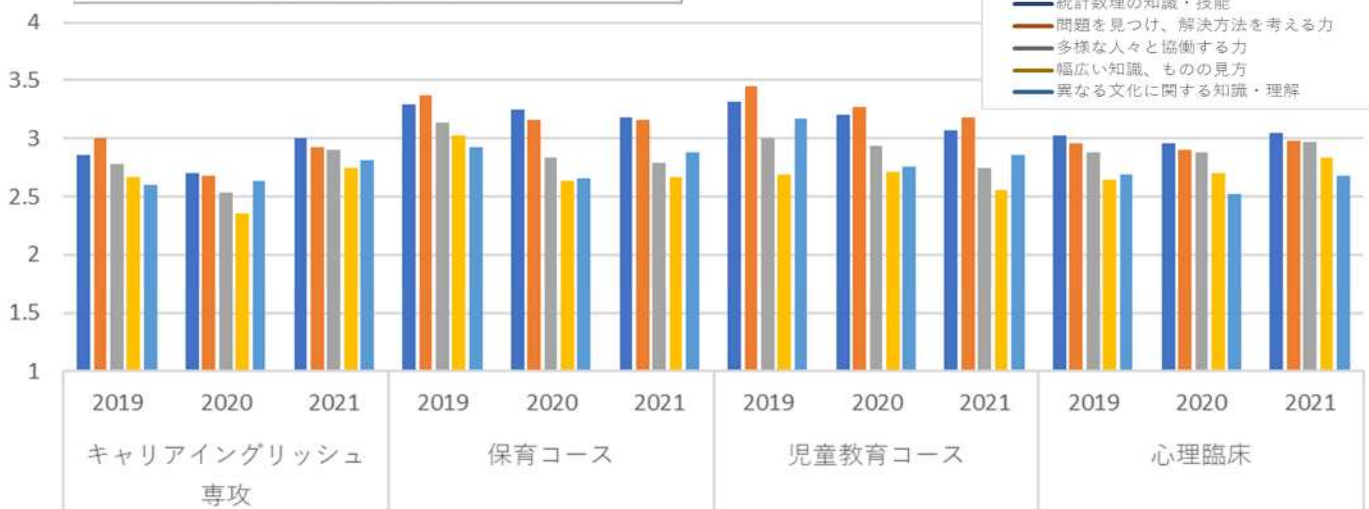
学修時間については、2020年度以降でどの学科専攻も授業に関する学習の時間が増加していました。2020年度前期よりオンライン授業に方向転換し、オンライン(特に Moodle によるオンデマンド)授業が増えてその分課題も増えたことが関係していると思われます。

児童教育コースで、授業の予習・復習・課題以外の学習時間が減少しています。授業の予習・復習・課題以外の学習とは、学問に関係する読書やディスカッション、実技の練習、資格試験の勉強等のことです。これについて学長室会では、人文学科または児童教育コース教員同士で協議して、どのようなことが理由で授業科目外の学習時間をとるのが難しくなっているのかを検討することが確認されました。

各種資質能力の成長実感

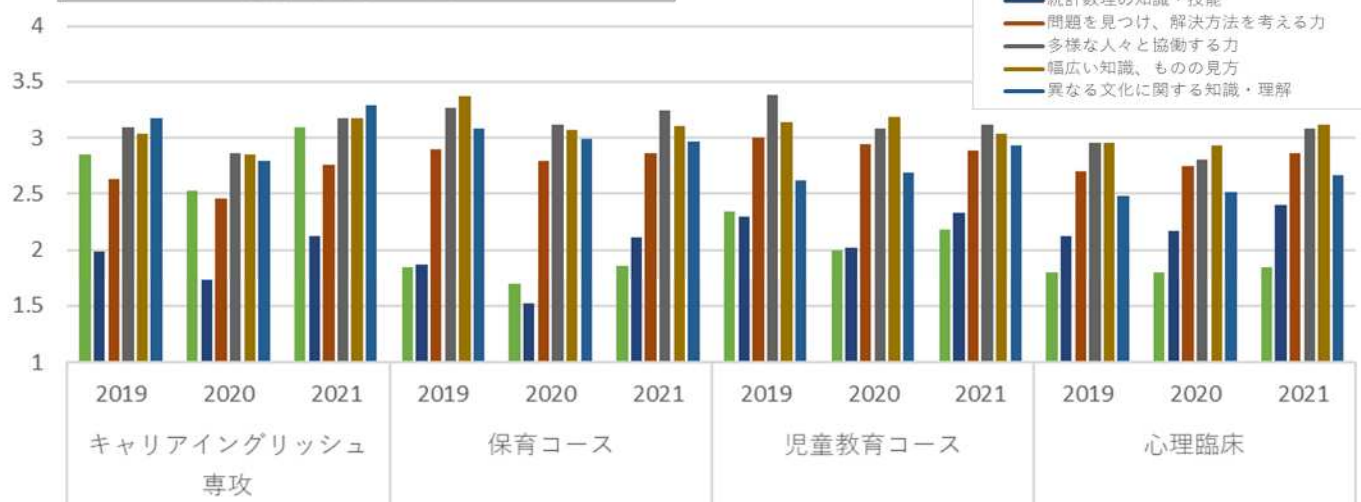
成長実感・全学科専攻コース（１）

※回答段階 1. まったく向上していない(身についていない)
 2. あまり向上していない(あまり身についていない)
 3. まあまあ向上した(ある程度身についた)
 4. かなり向上した(身についた)

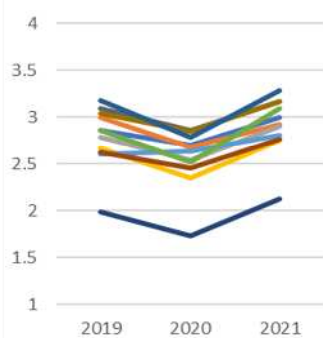


成長実感・全学科専攻コース（２）

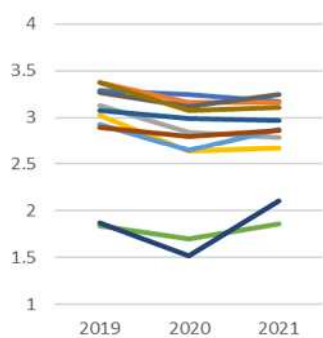
※回答段階 1. まったく向上していない(身についていない)
 2. あまり向上していない(あまり身についていない)
 3. まあまあ向上した(ある程度身についた)
 4. かなり向上した(身についた)



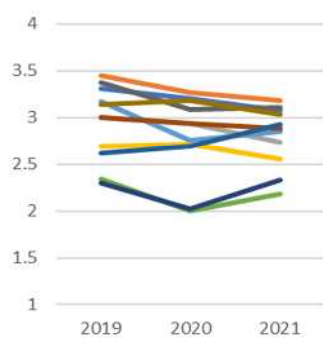
成長実感・CE



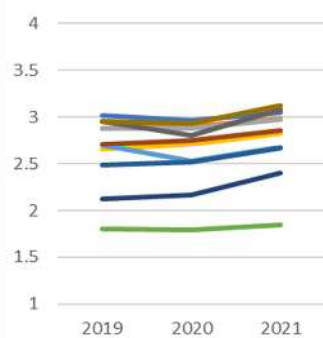
成長実感・保育

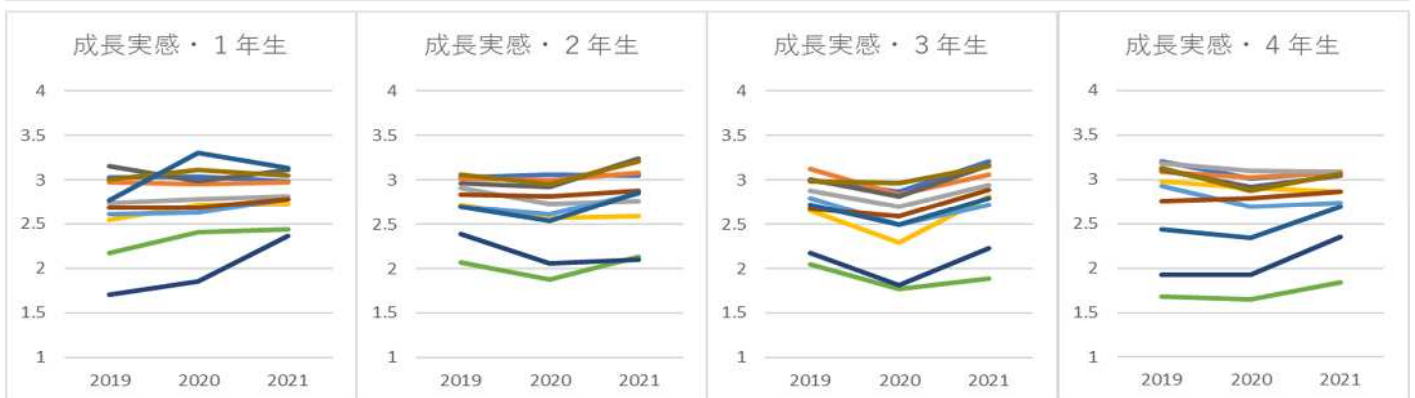
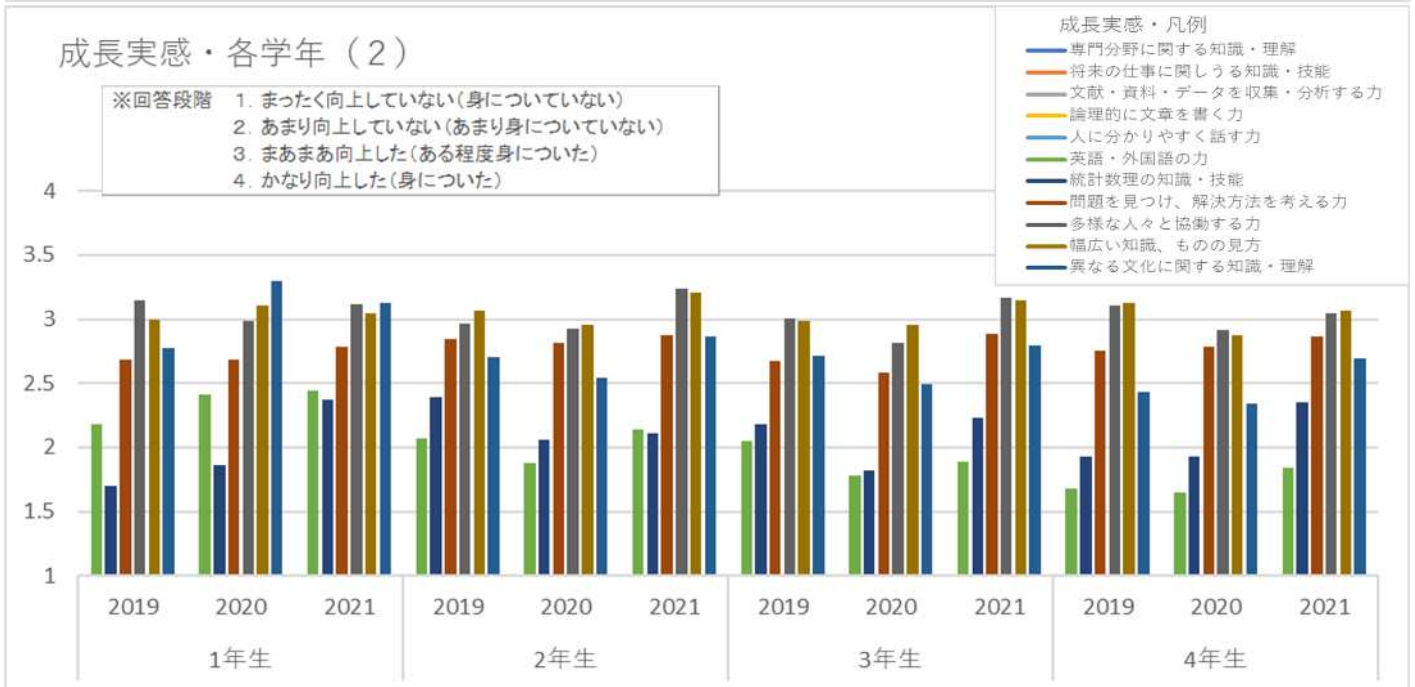
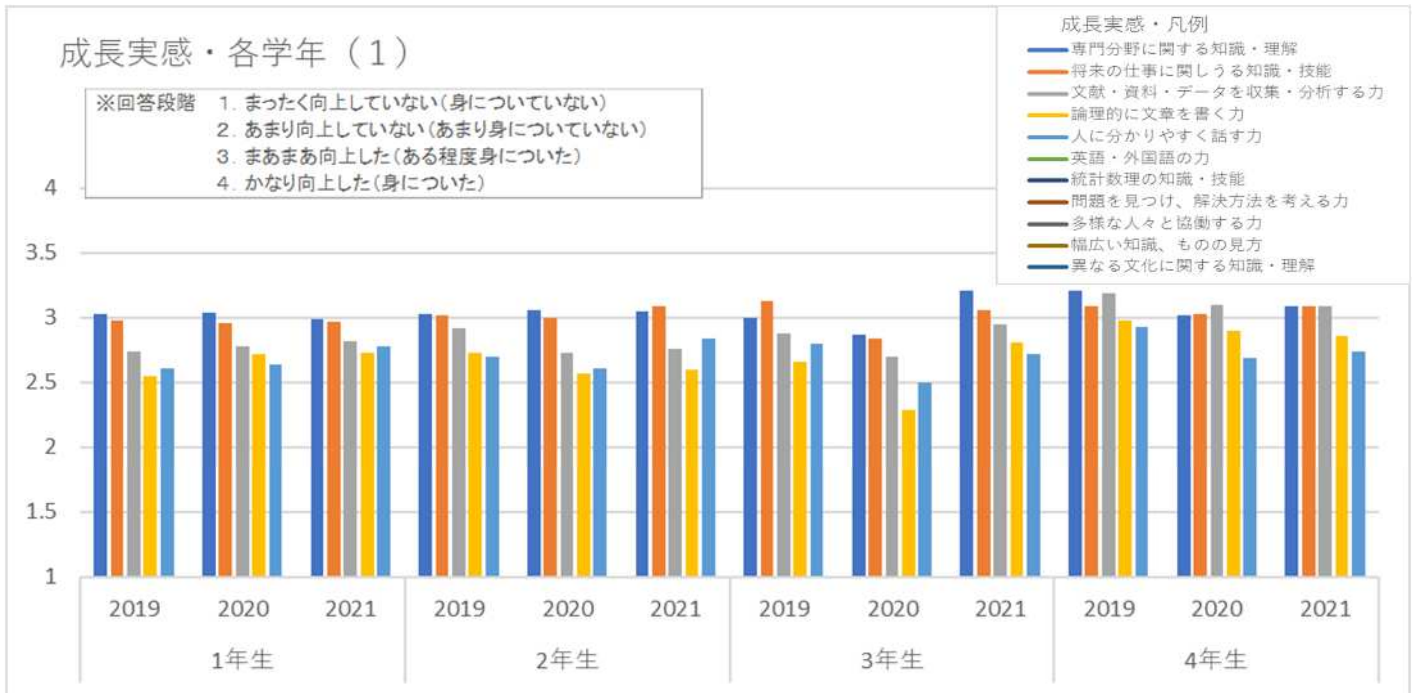


成長実感・児童教育



成長実感・心理臨床





統計的知識・技能については、その成長実感が特に保育コースと心理臨床学科で増加傾向にあり、学年別でみると2年生を除いた全ての学年で増加傾向にありました。学長室会ではこの結果に対して、心理臨床学科では実際に無償の統計ソフトウェアを使って一般的な多変量解析を行う授業の機会を増やす試みがなされて、それが統計的知識・技能の成長実感の増加につながっているのではないかという意見が出ま

した。また、保育コースでは特に多変量解析の技能まで必要はなく、データの集計やグラフ化の技能が身につくとよいという意見も出て、統計的知識・技能を全学的にどのような体制と環境のもとで学修できるように整備していくかが検討課題となりました。

学長室会では、各学科専攻コースで次号の授業評価の経年比較結果と合わせて、学修態度・行動、学修時間、成長時間に関する経年比較の結果をさらに確認して、各学科専攻コースの教育・授業の在り方やカリキュラムを検討し問題点を解消していくことが確認されました。

発行

〒860-8520熊本市中央区黒髪3-12-16

九州ルーテル学院大学

IR・情報委員会／総務課 IR 情報室

2022年9月30日